

GYROSCOPE



早下隆士

Takashi HAYASHITA

2019年度日本イオン交換学会会長

[所属]

上智大学理工学部物質生命理工学科
教授

[略歴]

1980年 九州大学工学部合成化学科
卒業1985年 同大学院工学研究科博士課程
修了(工学博士)

1985年 神奈川大学工学部助手

1989年 米国テキサス工科大学博士
研究員

1991年 佐賀大学理工学部助教授

1997年 東北大学大学院理学研究科
助教授

2005年 上智大学理工学部教授

2010-2014年 上智大学理工学部長・
研究科委員長2014-2017年 上智大学学長
現在に至る

[主な専門分野]

分析化学, 超分子化学

[連絡先]

〒102-8554

東京都千代田区紀尾井町7-1

上智大学理工学部物質生命理工学科

E-mail: ta-hayas@sophia.ac.jp

「イオン交換学会の歴史と課題」

山梨大学の熊田伸弘前会長には、この2年間学会のために大変ご尽力いただきました。心よりの感謝を申し上げたいと思います。

さて昭和60年に、東京工業大学の阿部光雄教授(当時)と山梨大学の鈴木 喬教授(当時)らの呼びかけで、本会の前身となるイオン交換研究会が発足しました。同年10月に第1回日本イオン交換研究発表会が東京工業大学で開催され、この発表会が、本会の記念すべき最初の活動となりました。当時私は、神奈川大学の助手として、井川 学助教授(当時)の研究室に着任したばかりでした。そこには井川先生の東京大学時代の恩師であられる山辺武郎先生も、神奈川大学学長としておられました。井川先生、山辺先生を通して、東大生研の妹尾 学教授(当時)をはじめ、多くのイオン交換研究に関わる先生方に出会うことができましたことは、私自身にとりまして大変に幸運なことであったと思っております。ながきご縁のつながりにより、今年度より日本イオン交換学会の会長として、先の先生方が築きあげられた本会を引き継ぐ責任の重さに、身の引き締まる思いでおります。

本学会の主な活動は、年に3回発行される会報誌の他に、毎年初夏(7月)に行われるイオン交換セミナーと、秋(10月)に行われるイオン交換研究発表会があげられます。セミナーと研究発表会を通して、産・官・学のイオン交換に関わる研究の発表と討論、そして情報交換が行われます。また4年に一度のイオン交換国際会議(International Conference on Ion Exchange, ICIE)を主催しており、1991年に東京(東京工業大学)での第1回開催に始まり、その後、高松、金沢、千葉、メルボルン、沖縄、ジョグジャカルタと引き継がれ、2022年には東京(上智大学)での開催を予定しております。英国を中心に西半球で行われる国際イオン交換会議(IEX)と、日本を中心に東半球で行われるイオン交換国際会議(ICIE)を交互に開催する枠組みは、当時の国際委員会委員長であった小松 優名誉会員のご努力によって築かれたものです。世界中で研究・産業のグローバル化が進む中、本会が主催するICIEは、ますます重要な会議になるものと考えております。

本学会の最大の魅力は、何よりもイオン交換に関わる研究や産業で、産業界メンバーの協力を伴った産官学の連携が非常に良い形でできている点でしょう。しかし、一方、今後本会の発展のために早急に取り組まねばならない課題も当然あります。まずは、本会の裾野を更に広げるべく、イオン交換にかかわる様々な研究や産業を取り込んでいくことに取り組まねばならないと考えております。このことは、学会の会員数および法人会員を増やすことにも繋がります。イオン交換樹脂、イオン交換膜の研究を中核として、環境問題やエネルギー問題を支える多くのイオン交換技術にかかわる企業関係者、化学分野はもとより、イオン交換研究の基礎となる物理学分野、生物学分野、さらには全く異なる分野の研究者も集まってくるきっかけを提供できるダイバーシティを具備した学会へと発展させることを、まずは私自身会長としての責任のもとに取り組んでいく覚悟です。